

体感をもって楽しめますし、実践的な英会話を学ぶことができます。英語圏の国では当たり前の発音や言い回しでも、日本の英語教育では、あまり教えられていないことがたくさんあります。そういった現地で使える知識を生徒に積極的に教えていくことは、日本の未来のためにも必要なことです。将来、生徒たちが世界でコミュニケーションを取れる人材に成長できるよう今私たちができるところをしようと思っています。

資格取得やスポーツから 将来につながる力が芽生える

子どもたちは、親や先生が考えている以上に自分で生きていく力を持っています。逆に周りの大人が、子どもを心配して手を掛けすぎてしまうと豊かな人間性を奪うことにもなりかねません。だから私はアルバイトなど社会勉強になり得ることを生徒にどんどんすすめています。アルバイトというのは社会と関わって成長していける絶好の場ですし、自分でお金を稼ぐ経験は自立心の芽生えにつながります。若いときからギブ&テイクの精神をもって人と関わるパートナーシップを磨いていけば、社会とつながって生きていく人物になります。そして、自立心は夢を実現する力や発想につながります。親や先生にうながされなくても、自分のやりたいことがハッキリわかって進んでいける若者になります。

就職に役立つ免許や資格も積極的に取ることをすすめています。実際に、フォークリフトの免許を取った生徒がいます。実は私もその免許を取りました。その生徒と約束して、彼が免許を取ったら、私も取ると言ってしまったのです(笑)。彼が見事に合格したので、私も約束を守るために一生懸命勉強しました。驚いたことに、試験会場にいるのは、働き盛りの若者ばかり。みんな必死になって試験を受けていて、「こんな試験に高校生が合格したのか!」と私は改めてびっくりしました。自立心が育っていなければできないことだと思い、その生徒の活躍を誇らしく感じました。その生徒は、ほかにも玉掛、高所作業車・運転免許などの5つの資格を取得しました。

また、相生学院高校ではスポーツをしたい生徒がその道に思いっきり打ち込める、カリキュラムを組んでいて、優秀なコーチやトレーナーもたくさん揃っています。私も陸上部でコーチをしていて、伊藤君という「三段跳び」をしている生徒を教えています。そのとき陸上部はまだ、伊藤君一人の部だったのですが、彼は新聞配達のアルバイトをしながら、トレーニングにも打ち込む努力家で、去年は全国大会の舞台に立ったんです。私は伊藤君とそこまで二人三脚でやってきましたから、結果に貢献できたことがとても嬉しかったです。次の年には部員も増えて、こうやって発展していけるのは、頑張っている生徒のおかげだと思います。

ピンチをチャンスに変える力を生徒に

私は生徒が高校生のうちから自らに投資をして、社会で自立する力をつけておいて欲しいと思います。ピンチはチャンスという言葉のように、負けることも勝ちにつながる大切な経験です。だから高校生のうちからたくさんの活動や勉強をして何度もピンチを経験してもらいたいのです。そういう意味で明石校を生徒たち個人の成長やチャンスを助長する学校にするべく、特別活動やコミュニケーションスキル、キャリア教育に力を注いでいます。



▲ 3年の木下杏梨さん(左)、1年の岩澤春日さん(右)尾池校長と一緒にさまざまなイベントで活躍されています。